

一般質問から

施策の進め方について

Q 本年3月議会において、小中一貫校関連予算が提案され賛成多数で可決され、その後説明会が行われましたが、本定例議会に八條北小を八條中に移転させる計画の撤回を求める請願が賛同者3812名の署名簿と共に提出されました。

大久保龍雄

A 説明会でのご意見やご要望、請願書につきましては、十分認識してまいります。現在検討してはいますが、子供たちにとってよりよい教育を実施する為には学校・保護者・地域住民の皆様と教育行政との連携が重要と考えております。今後市の施策を推進するにあたりましては、市民の皆様にご理解頂けるよう努力して参ります。

小中一貫教育について

Q 3月議会にて可決された小中一貫教育実施に向けた政策に対し、「モデル校の決定は関係児童や保護者の意見を聞くことなく強行的。通学距離がのびる児童もあり、到底受け入れられない」という主旨の請願が3812名の賛同者にて議会に提出されましたが、小中一貫教育は、独立行政機関である「教育委員会」が責任を持って政策を決定し、実施していくものなのか。教育行政の原則と責任について見解をお聞かせください。

森 伸一

A 「教育委員会」は、独立した機関であり、特定の政治団体やイデオロギーなどから支配されることなく、中立した立場をとる機関であります。「教育委員会」は、長期的な展望に立ち、八潮の教育の在り方に責任を持って施策を実行していくことを基本としております。

小中一貫教育について

Q 小中一貫教育の導入に伴い、住民の方々の不安や課題に対する市の対応についてお伺いします。

宇田川幸夫

A 平成18年3月議会定例会後、教育委員会事務局は4月、5月にかけてまして、説明会を実施してまいりました。その説明会の中で、「通学距離の問題」「施設の安全確保」「小中学生と一緒に学校生活を送る上での課題」「一体型モデル校の開校時期や実施校の再検討」「小中一貫教育そのものには賛成であるが、どうせやるならば、新しい施設でやってほしい」など、様々な課題・要望を多く頂いて

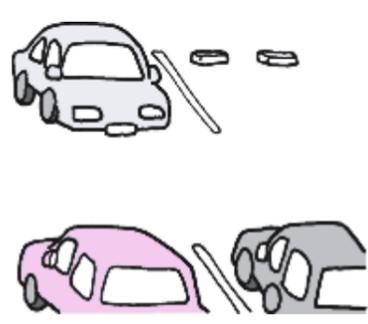
参りました。教育委員会事務局といたしましては、これらの課題・要望をすべてまとめまして、定例及び臨時の教育委員会に提出し、教育委員の方々に検討いただいているところでございます。

駐車場に内部障害者用（ハートプラス）の表示について

Q 障害者用スペースであることを示す車椅子マークと同じように、身体内部（心臓や呼吸器、肝臓、膀胱、腸など内蔵機能の障害）のスペースにも「ハート」に思いやりの心を加えるという意味の「ハートプラス」をデザインした駐車スペースの使用の設置についてお尋ねをいたします。

小倉 順子

A 「第2次八潮市障害者行動計画」に基づき、ノーマライゼーションや福祉のまちづくりに関する啓発及び機運を醸成するため、内部障害のある方に対する市民一人ひとりの理解を深め



ミニ公募債の発行について

Q 財政難の中でも行政は、やらなければならない事が沢山あります。消防署の新築、小中学校の耐震工事、区画整理事業など様々です。その中でも区画整理事業は急を要する事業です。そこでミニ公募債の発行をして、早期に市民の皆様のご要望に沿えるようにしたら良いかと思いますが、お考えをお聞かせください。

近藤 晶作

A 市が実施する事業に対する住民の理解が深まり、資金調達の多様化、自己調達の観点からも有効な地方債であります。ミニ公募債の割合が年々高く

なっております。問題点としては、償還期間が短くなること、発行、償還に係る費用を要することが考えられます。特に償還期限については、金融商品としての性格から、概ね5年程度の償還期限と通常の地方債より短い設定になります。住民にとってわかりやすく、かつ積極的に行政参加をしていただける事業に対して、ミニ公募債の発行について、他市や県の状況などを調査し、検討してまいりたいと考えております。

八条用水親水緑道整備について

Q 平成14年第1回定例会で、質問いたしました八条用水親水緑道の寿老橋から夢像幼児公園までの整備計画について再度お伺いします。

戸川須美子

A 八条用水親水緑道の寿老橋から夢像幼児公園までの未整備区間につきましては、緑道としての機能確保のために、緑道の幅員確保や交差点との取り付けなど、大規模な工事が必要です。

しかしながら、現在の道路状況は、散歩されている方々や自転車通学している高校生たちが多く利用しており、歩車道の区分が無いために、交通事故が

